

株主通信

第18期 中間報告

2009年4月1日▶2009年9月30日

(旧 グリーンホスピタルサプライ株式会社)

“生命を守る人の環境づくり”を、これからも。



SHIP HEALTHCARE HOLDINGS

シップヘルスケアホールディングス株式会社

証券コード:3360

2009年10月1日より、持株会社体制への移行、商号の変更を行ないました。

シンボルマーク



SHIP HEALTHCARE HOLDINGS

SHIPグループの理念

S. H. I. P.

Sincere + Humanity + Innovation + PartnerSHIP
(誠実な心) (「情」の心) (革新者の気概) (パートナーシップ)

「生命を守る人の環境づくり」を、これからも。
SHIPグループはいつもYour Companyです。

同じ想いを共有するSHIPグループとともに、今後も「生命を守る人の環境づくり」に貢献し続けます。

トップインタビュー



代表取締役社長
古川 國久

『進化』と『成長』はとまらない

2009年10月1日より
持株会社体制へと移行し、
さらなる成長を目指してまいります。

Q1

まずは、このたびの持株会社体制への移行の背景と狙いについてお話しいただけますか。

世界的な景気の後退、診療報酬改定をはじめとする医療制度改革などにより、医療機関の経営環境は年々厳しさを増し、赤字で苦しむ医療機関が増加する一方で、地域中核病院をはじめとする医療機関の統廃合などによりさらに大型化・高機能化が進むことで、施設数は減少傾向にあり、二極化が顕著になってきております。

このような環境の下、当業界におきましては、医療機器の更新需要の低迷や単価の下落など厳しい状況が続いておりますが、当社グループは1992年に創業以来、医療機関とのパートナーシップを基本に、業界のイノ

ベーターとして業容を拡大してまいりました。この成長路線をさらに強化するために昨年中長期経営計画を策定いたしました。その具体的施策の一つである「グループ企業の再編・統合」を実行し、より強固かつ連携のとれたグループ経営を遂行することを企図し、2009年10月1日より持株会社体制へ移行いたしました。

今後も、更なる成長および経営効率化を図るため、セグメントの整理やグループ企業の再編・統合を推し進めてまいります。

トップインタビュー

業界NO.1を揺るぎないものに

Q2

それではこの体制をベースにどのような方針を強化されていきますか。

当社グループは、医療機関のあらゆるニーズに対して、ワンストップソリューションを提供できる企業集団を目指し、事業展開しております。

激変する医療環境の下、顧客のニーズは益々多岐にわたります。「旬」の製品・システム・サービスを捉え、柔軟に対応し、ソリューションを提供していくことで、いかに成長していくかが大きな課題であります。従来から当社グループが最も得意としている、コンサルティングから医療機器の選定・一括販売までをトータルで提供する「トータルバックシステム事業」を柱に成長、進化させることが重要であります。

変化する顧客ニーズ、特に医療機関の高機能化・大型化の進行などに対して、従来の「コンサルティング」や「エンジニアリング」を越え、これまで培った数多くの実績を踏まえ、幅広い見地と先見性に基づいた「企画力」を強化し、またメーカー部門による新製品の開発、製造、メンテナンスを加えた総合的な提案をできる体制づくりが急務であります。

この体制実現のため、まず第一歩として今回持株会社体制へ移行いたしました。今後はグループ全体のセグメントレベルでの見直しや、営業戦略の連携と強化、新製品の開発などによるグループ各社のシナジーを引き出し、経営資源を最大限に活かせる体制を構築、強化して

まいります。

グループ会社の再編・統合や財務体質の強化など経営資源の効率化を図ることで、より強固な経営体制を構築し、2012年度の連結売上高2,000億円達成を目指してまいります。



Q3

そのような中、当第2四半期連結累計期間の業績はいかがでしたか。

当第2四半期連結累計期間における当社グループが属する医療業界は、医療費抑制を目的とした医療制度改革により病院経営環境が引き続き厳しい状況におかれ、医療機器の更新需要の低迷が続いております。このような環境の中、2008年度から展開しております中期経営計画の下、プロジェクト体制への移行、組織再編、製造コストの低減、管理コストの圧縮を推し進めるなど、更なる成長への基盤整備と業績拡大に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、当初計画を上回る結果となりました(580億31百万円(前年同四半期比14.4%増))。この主な要因といたしましては、トータルバックシステム事業において、下期計上予定の一部案件が前倒しで計上されたこと、工事進行基準への会計基準の変更により一部案件が売上計上されたことや、メディカルサプライ事業において、循環器系診療材料等の販売が寄与したこと、また、ヘルスケア事業における介護付有料老人ホームの入居者が増加したことなどが挙げられます。利益面につきましても、継続した仕入価格交渉や運営効率

化などの結果、四半期純利益も当初計画を上回る結果となりました(9億24百万円(前年同四半期比144.2%増))。

このように、厳しい経営環境の中、順調に業績をあげることができましたが、下期は景気の動向がなお予断を許さない状況であることから、通期売上高及び営業利益の計画は当初計画を据え置いております。

また、中期経営計画の基本方針である「財務基盤の強化」につきましては、当第2四半期末において有利子負債残高が若干増加しておりますが、保有不動産の流動化等により現預金の積み増しを含め、通期においては削減を見込んでおり、財務基盤がさらに改善される見込みであります。

■ 中期経営計画 基本方針

1. 各セグメント毎の成長のための施策の実践
2. グループ企業の統合再編と連結経営の強化
3. キャッシュ・フローの重視による財政基盤の強化

Q4

最後に株主の皆さまへのメッセージをお願いいたします。

「生命を守る人の環境づくり」は当社グループが創業以来掲げているグループアイデンティティです。

これまで、当社グループは、医療環境の整備・向上のお手伝いをしてまいりましたが、日本の医療業界は前述のように超少子高齢化社会の到来や医師・看護師の不足、診療報酬・薬価改定、医療費の包括化(DPC)、訴訟リスクや安全管理コストの上昇など、様々な課題に直面しております。

我々に課された課題は非常に大きく、これらの変化をビ

ジネスチャンスと捉えており、業績の向上を図るとともに、配当性向30%を目指して安定的配当を継続してまいります。

今回の持株会社体制化を契機に、当社グループはこの創業の精神を忘れず研鑽を積み、医療業界のリーディングカンパニーとして、これからも「生命を守る人の環境づくり」を続けてまいります。

トピックス

■ 酒井医療株式会社の株式を取得

当社グループは、主力事業でありますトータルパックシステム事業のソリューション能力の強化に向けて、メーカー系事業会社の補強・拡充に努めています。この一環として今回、福祉・介護領域の老舗メーカーとして定評のある酒井医療（株）の株式を当社子会社であります（株）セントラルユニにおいて2009年10月23日付けで取得いたしました。

子会社化によるシナジー効果

酒井医療（株）の特殊浴槽、リハビリ機器等の福祉分野に（株）セントラルユニの持つ医療分野と合わせ、当社グループとしてのソリューション領域の深耕、拡充につながります。

各社での既存病院へメンテナンスの共同展開
効率化の促進とメンテナンス領域の拡大

医療・福祉分野の共同開発
それぞれの得意分野における技術を生かした新製品の開発

グループ設備投資の内製化
特殊浴槽、リハビリ機器等の老人ホームにおける内製化

名 称	酒井医療株式会社
所 在 地	東京都文京区本郷三丁目15番9号
代表者の役職・氏名	加藤 毅
事 業 内 容	1) 医療用具の製造および輸入ならびに販売および輸出業務 2) リハビリテーション機器の製造および輸入ならびに販売および輸出業務 3) 理学療法機器の製造および輸入ならびに販売および輸出業務 4) 身体障害者用介護機器の製造および輸入ならびに販売および輸出業務 5) 身体障害者用自立用具の製造および輸入ならびに販売および輸出業務
資 本 金	9,000万円
設 立 年 月 日	1939年12月14日



■ スキルシミュレーションセンターを竣工

当社グループは、お客様へのより良いご提案、サービスを実施していくために様々な新しい取り組みを行っています。今回、この取り組みのひとつとして手術室、ICUのコーディネートを実際に体験していただきながらご提案することが可能な「スキルシミュレーションセンター」を竣工いたしました。この施設では、実際の手術室やICUにおける装置をご来場者に合わせて実際に設置して動線、視線を確認頂くことができます。

当社グループではこの新しいショールームを最大限に活用し、お客様にご満足頂ける提案を行ってまいります。

同施設の開設によるメリット

当施設は、手術室などの新築や改装を包括的にサポートするショールームとして、その提案から施工に関わる一連の技術・製品をご覧頂けるシミュレーションタイプです。

手術室周辺の体験的提案が可能に

グループ内サービスの総合的提案能力の向上



連結財務ハイライト / 事業別の概況

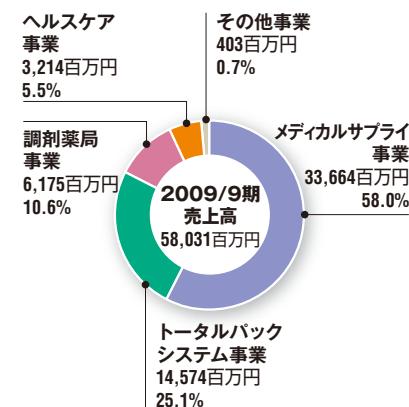
連結財務ハイライト

(単位:百万円)

	2007/3	2008/3	2008/9	2009/3	2009/9 (当第2四半期)
売上高	78,845	105,871	50,743	118,604	58,031
営業利益	3,297	2,979	821	3,625	1,519
経常利益	3,643	3,045	1,070	3,761	1,700
四半期(当期)純利益(△純損失)	2,468	△3,767	378	2,053	924
総資産	90,213	107,317	103,713	101,573	98,371
純資産	25,726	21,202	21,544	23,534	24,418

事業別の概況

事業別売上高構成比



トータルパックシステム事業

トータルパックシステム事業におきましては、先期からの期ずれ案件が売上計上されたこと、工事進行基準による売上計上が採用されたこと、当初下期計上予定であった案件の一部が当第2四半期に売上計上されたこと等から増収増益となりました。

以上の結果、売上高は14,574百万円(前年同四半期比1.0%増)、営業利益は807百万円(前年同四半期比36.5%増)となりました。

メディカルサブライ事業

メディカルサブライ事業におきましては、昨年9月から加わった循環器系診療材料販売会社の業績が順調に推移したこと、診療材料の販売単価が低下する中、仕入価格交渉を継続して利益率の改善に努めたこと、また、契約件数の伸びた院外SPD、院内SPDの効率化を進めたことから増収増益となりました。

以上の結果、売上高は33,664百万円(前年同四半期比22.8%増)、営業利益は535百万円(前年同四半期比86.7%増)となりました。

ヘルスケア事業

ヘルスケア事業におきましては、全7施設定員1,308名の9月末入居者数は1,080名となり、給食提供サービス事業も新たな契約先を獲得して増収増益となりました。

以上の結果、売上高は3,214百万円(前年同四半期比25.1%増)、営業利益は220百万円(前年同四半期比営業利益16百万円)となりました。

調剤薬局事業

調剤薬局事業におきましては、当期における新たな出店は2店舗のみでありましたが、前年度出店した店舗の業績が順調に積み上がり、効率的な薬局運営によるコスト削減策が功を奏して増収増益となりました。

以上の結果、売上高は6,175百万円(前年同四半期比8.0%増)、営業利益は501百万円(前年同四半期比23.5%増)となりました。

その他事業

その他事業におきましては、動物病院は固定客の獲得による安定的な業績を継続することに注力いたしました。理化学機器分野は前年同期に比較して低調に推移いたしました。

以上の結果、売上高は403百万円(前年同四半期比33.4%減)、営業利益は28百万円(前年同四半期比32.3%減)となりました。

連結財務諸表

■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第2四半期 2009年9月30日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在	前 期 2009年3月31日現在		当第2四半期 2009年9月30日現在	前第2四半期 2008年9月30日現在	前 期 2009年3月31日現在
【資産の部】				【負債の部】			
流動資産	54,293	52,039	58,005	流動負債	51,788	55,965	55,557
現金及び預金	9,287	11,239	9,780	支払手形及び買掛金	26,511	24,259	30,496
受取手形及び売掛金	30,547	26,589	34,713	短期借入金	11,126	20,445	11,915
商品及び製品	5,205	5,543	5,270	未払法人税等	910	550	1,493
仕掛品	2,363	2,544	2,126	賞与引当金	839	753	738
その他	6,889	6,122	6,114	その他	12,400	9,957	10,914
固定資産	44,078	51,673	43,567	固定負債	22,164	26,203	22,480
有形固定資産	25,886	32,851	25,703	社債	2,124	1,893	1,486
建物及び構築物(純額)	8,490	8,133	8,095	長期借入金	17,549	22,099	18,485
土地	6,667	6,689	6,670	退職給付引当金	1,048	1,032	1,105
賃貸不動産(純額)	9,458	16,873	9,628	その他	1,442	1,177	1,404
その他(純額)	1,269	1,155	1,309	2 負債合計	73,953	82,168	78,038
無形固定資産	6,161	7,117	6,702	【純資産の部】			
投資その他の資産	12,030	11,704	11,161	株主資本	17,793	15,750	17,425
1 資産合計	98,371	103,713	101,573	資本金	5,667	5,667	5,667
				資本剰余金	6,593	6,593	6,593
				利益剰余金	5,534	3,491	5,165
				自己株式	△1	△0	△1
				評価・換算差額等	644	37	174
				その他有価証券評価差額金	656	63	208
				為替換算調整勘定	△12	△25	△34
				少数株主持分	5,978	5,754	5,933
				3 純資産合計	24,418	21,544	23,534
				負債純資産合計	98,371	103,713	101,573

■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 2009年4月1日～ 2009年9月30日	前第2四半期 2008年4月1日～ 2008年9月30日	前 期 2008年4月1日～ 2008年9月30日
4 売上高	58,031	50,743	118,604
売上原価	50,595	44,084	103,118
売上総利益	7,435	6,659	15,485
販売費及び一般管理費	5,916	5,837	11,860
5 営業利益	1,519	821	3,625
営業外収益	574	720	1,062
営業外費用	393	471	926
経常利益	1,700	1,070	3,761
特別利益	59	2	2,181
特別損失	138	84	1,576
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,621	987	4,366
法人税、住民税及び事業税	936	556	1,977
法人税等調整額	△335	11	90
少数株主利益	95	40	245
四半期(当期)純利益	924	378	2,053

■ 財務状況

- 資産合計／資産は、短期貸付金が839百万円、投資有価証券が767百万円増加した一方、受取手形及び売掛金が4,165百万円減少したこと等により、前期末に比べて3,201百万円減少し98,371百万円となりました。
- 負債合計／負債は、1年内返済予定の長期借入金が1,544百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が3,985百万円、長期借入金が935百万円減少したこと等により、前期末に比べて4,085百万円減少し73,953百万円となりました。
- 純資産合計／純資産は、配当金により利益剰余金が551百万円減少した一方、四半期純利益により利益剰余金が924百万円、その他有価証券評価差額金が447百万円増加したこと等により、前期末に比べて883百万円増加し24,418百万円となりました。自己資本比率は前期末比1.4ポイント増の18.7%となりました。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	当第2四半期 2009年4月1日～ 2009年9月30日	前第2四半期 2008年4月1日～ 2008年9月30日	前 期 2008年4月1日～ 2008年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	1,389	3,044	5,133
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,787	564	8,596
財務活動による キャッシュ・フロー	△54	△666	△12,236
現金及び現金同等物に 係る換算差額	4	△6	△15
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△448	2,935	1,477
現金及び現金同等物の 期首残高	8,793	7,105	7,105
連結の範囲の変更に伴う現金及び 現金同等物の増減額(△は減少)	△35	211	211
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	8,310	10,251	8,793

■ 業績・成果

- 売上高／トータルバックシステム事業の増収ペース回復に加え、メディカルサプライ事業、ヘルスケア事業、調剤薬局事業が好調に売上を伸ばしたことから、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同四半期比14.4%増の58,031百万円となりました。
- 営業利益／厳しい病院経営環境を反映して医療機器の更新需要の低迷が続く中、組織再編、製造コストの低減、管理コストの圧縮等を更に推し進めました。事業別には、メディカルサプライ事業において診療材料の仕入価格交渉の継続、院外SPDや院内SPDの効率化の推進、調剤薬局事業において効率的な薬局運営によるコスト削減策の実施など、全事業セグメントにわたって収益構造の改革を更に推し進めました。これらの結果、営業利益は前年同四半期比85.0%増の1,519百万円となりました。

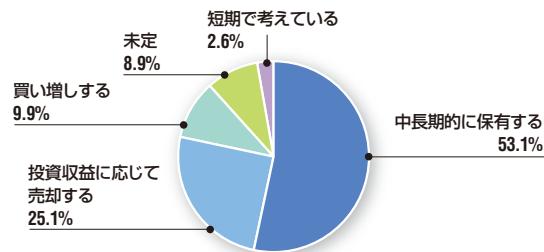
株主アンケート集計結果のご報告

アンケートへのご協力 ありがとうございました。

第17期株主通信において株主の皆さまへのアンケートを実施させていただいた結果、426名の方々よりご回答を頂戴いたしました(2009年9月30日現在)。ご協力、心より感謝申し上げます。集計結果や株主の皆さまのお声の一部を、ここに紹介いたします。

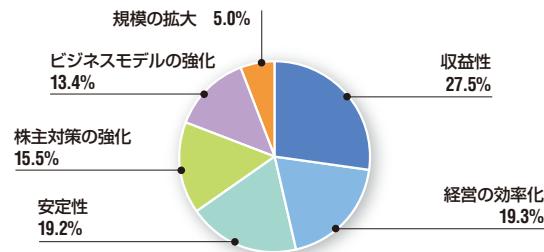
当社株式の今後の保有方針(1点選択)

当社株式の今後の保有方針を伺った結果、前回に引き続き「中長期的に保有する」(53.1%)が前回より2.9ポイントアップし、第1位で過半数を占めるに至りました。しかしながらこの結果に決して慢心することなく、皆さまからの一層のご支援を賜るべく、各経営戦略を着実に推進し、持株会社としてグループの企業価値の向上に努めてまいります。



当社経営で重視すべき内容(上位3点選択)

当社経営について何を重視すべきか伺ったところ、上位2点は前回に引き続き「収益性」(27.5%)及び「経営の効率化」(19.3%)で過半数近くを占める結果となりました。このようなご意見や期待に応えられるよう、収益性を重視しながら、グループ企業の機能強化、安定した連結経営に努めていく方針です。



その他主なご意見等

<経営に対するご意見の一部>

- 今回配当が出たことをうれしく思います。
- 医療・介護部門は今後の伸びが期待できる。是非とも業績をあげて下さい。
- 中期経営計画に基づき着実に成長基盤の構築達成に期待しています。
- 株が上昇傾向になればもっといい。業務の多様化の集約はどうか。
- 収益性を追求しながらもコンプライアンス重視を。

<その他様々のご意見の一部>

- 顧客ニーズ、市場動向の把握、それへの対応を知りたい。
- 社会福祉事業として、これから期待される企業である。企業としての収益と同時に公益性を大切に、大きく育てて欲しい。
- 規模を求めるのではなく、効率よく成長して欲しいです。

今回のアンケートにおきましても、株主の皆さまより多くのご意見・ご要望等を頂戴いたしました。その中で特徴的だったのは、復配についてのお言葉を数多く頂いたことでした。次いで、株価、経営に対するご意見等を頂きました。

今後はグループを統括する持株会社として、当社へのご理解を一層深めて頂けますようIR活動にも積極的に努め、株主の皆さまから愛されるSHIPグループの形成を目指してまいります。アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。

会社情報 (2009年10月1日現在)

会社概要

商号 シップヘルスケアホールディングス株式会社
 設立 1992年8月
 代表取締役社長 古川 國久
 資本金 56億6,708万円
 決算月 3月
 従業員数 連結1,888名/単体185名
 本社所在地 〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
 TEL : 06-6369-0130(代)
 FAX : 06-6369-3191

役員

代表取締役社長	古川 國久
取締役社長	川藤 田川
取締役	伊藤 増小
取締役	増小 播小
取締役	小播 大沖
取締役	大沖 横本
取締役	横本 山川
取締役	細和 竹原
取締役	水野 川
取締役	久忍 順隆
取締役	健行 太一
取締役	司治 昭昌
取締役	也義 昌信

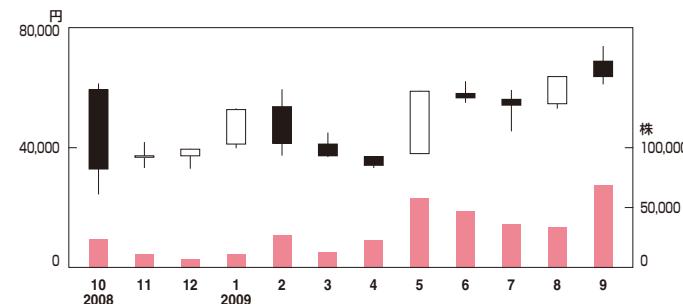
Stock Information

株式関連情報 (2009年9月30日現在)

大株主

	[所有株式数]	[所有割合]
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	36,636株	10.97%
古川 國久	34,285株	10.26%
(有)コックコー	33,819株	10.12%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	20,383株	6.10%
古川 幸一郎	15,850株	4.75%
資産管理サービス信託銀行(株)(信託口)	12,024株	3.60%
従業員持株会	9,240株	2.77%
石川 幸司	9,000株	2.69%
谷 幸治	5,615株	1.68%
ビーエヌビー パリバ セキュリティーズ サービス ロンドン ジャスデック ユーケー レジデントツ レンディング	5,600株	1.68%

株価・出来高の推移



株式の状況

発行可能株式総数 540,000株
 (2009年10月1日付で、640,000株となっております)

発行済株式総数 334,030株
 (2009年10月1日付で、412,595株となっております)

株主数 6,754名

株式分布状況

株式分布状況(株主数別)

自己名義株式	1名/0.01%
金融商品取引業者	21名/0.31%
金融機関	33名/0.49%
その他法人	57名/0.84%
外国人等	104名/1.54%
個人・その他	6,538名/96.80%

株式分布状況(株式数別)

自己名義株式	28株/0.01%
金融商品取引業者	1,527株/0.46%
外国人等	35,645株/10.67%
その他法人	36,513株/10.93%
金融機関	84,071株/25.17%
個人・その他	176,246株/52.76%

2009年 10月1日～ 持株会社体制への移行に伴い、
ホームページを新設しました。

HOME



<http://www.shiphd.co.jp>

IRトップ



<http://www.shiphd.co.jp/ir/index.html>

今後も株主の皆さまをはじめ、より多くの方に当社なら
びにSHIPグループに関するご理解とご関心をお持ち
いただけるよう、様々な情報を分かりやすく、そして迅
速に掲載してまいります。

株主メモ

事業年度	4月1日～3月31日
期末配当金受領株主 確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月中
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
特別口座の口座管理機関	住友信託銀行株式会社 (旧 グリーンホスピタルサプライ (株) の株主様) みずほ信託銀行株式会社 (旧 (株) セントラルユニの株主様)
同連絡先	住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.shiphd.co.jp (ただし、電子公告によることが出来ない事故、 その他のやむを得ない事由が生じたときは、 日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、住友信託銀行並びにみずほ銀行が口座管理機関となっておりますので、上記連絡先にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

お問い合わせ・資料請求等は、下記まで・・・

シップヘルスケアホールディングス株式会社
〒565-0853 大阪府吹田市春日3丁目20番8号
TEL : 06-6369-0130 (IR窓口) FAX : 06-6369-3191

URL (ホームページアドレス)

<http://www.shiphd.co.jp>



SHIP HEALTHCARE HOLDINGS